

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	やまぐちけんりつうべこうとうがっこう				②所在都道府県	山 口 県
26～30	①学校名	山口県立宇部高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計		
普通科	200	40	40	—	240	全校生徒 797 人（普通科 678 人、理数科 119 人） 教職員 69 人（校長 1 人、教頭 2 人、教諭・講師等 61 人、事務職員 5 人）	
⑥研究開発構想名	やまぐち発！地域から世界を見る広い視野と高い志を育成するプログラム						
⑦研究開発の概要	<p>○ 普通科1年次の全ての生徒を対象に国際性の素地を育成する。2年次以降、高いモチベーションと能力を有する生徒を対象とした「スーパーグローバルコース（SGコース）」を編成し、本研究開発により開発したプログラムを意図的・計画的に実施することで、将来、国際社会においてリーダーシップを発揮し活躍できる人材を育成していく。</p> <p>○ 本研究開発は、課題研究を中心に据え、大きな研究テーマを設定し、次の四つの課題研究に係る活動をグローバル人材育成の柱に位置付け、主体性、国際性、探究力、コミュニケーション能力を有し、グローバル化する国際社会においてリーダーシップがとれる人材の育成を図る。</p> <p>Ⅰ 総合的な学習の時間・・・「スーパーグローバルタイム（SGT）」</p> <p>Ⅱ 学校設定科目・・・・・・・・「課研表現」</p> <p>Ⅲ 課外活動（放課後・長期休業中）・・・「グローバルセミナー」</p> <p>Ⅳ アウトリーチ・・・・・・・・「海外実践」・「国内実践」</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>ア 目的 「世界の中の日本」「日本の中の山口県」「山口県の中の宇部」というつながりと広がり意識しつつ、諸課題の解決に向けて主体的に行動できるグローバル人材の育成をめざす。</p> <p>イ 目標 諸課題の解決に向けた方策を他者と協働しながら発案する力や、自らの考えを根拠に基づき、社会（地域・日本・世界）に発信する力を身に付ける。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校は現在、SSH（2期目）の指定を受け、国際社会に貢献する科学技術系人材の育成に取り組んでいる。生徒に身に付けさせたい力を育成するためのカリキュラム開発を山口大学工学部を中心とした県内外の大学等の専門機関と連携して進めてきた。組織的・計画的に生徒にはたらきかけることで、望ましい変容が見られるということを実感している。</p>					
		<p><b>研究開発の仮説</b> 地域から国際社会につながる諸課題について探究する活動や、直接世界に触れる体験活動を意図的・計画的に実施し、国際性の育成を図ることで、グローバル人材として必要な資質を身に付けることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究発表会の実施：SGHへの取組の有用性とグローバル人材育成の進め方の周知</li> <li>○ 研究開発成果をまとめた冊子の作成、配布</li> <li>○ 県内英語科設置校や国際交流推進校との連携、SGH教育プログラムの共有</li> <li>○ 県内の高校教員を対象とした研修会の実施</li> </ul>					

⑧ -2 課 題 研 究	<p>(1) 課題研究内容 地域が抱える諸課題を調査・分析し、その解決に向けた方策を検討するため、以下の三つの大きな研究テーマを設定し、地域の先にある世界が抱えるグローバルな諸課題解決への糸口をつかみ広く発信する。 【研究テーマ】</p> <table border="1" data-bbox="341 338 1441 483"> <tr> <td data-bbox="341 338 368 383">Ⅰ</td> <td data-bbox="368 338 1441 383">「山口から発信、国際競争力のある企業戦略 ～アジア新興国の台頭を受けて～」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 383 368 427">Ⅱ</td> <td data-bbox="368 383 1441 427">「山口活性化計画の提言 ～世界に誇れる活力ある地域づくりの発信～」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 427 368 472">Ⅲ</td> <td data-bbox="368 427 1441 472">「山口からはじまる国際貢献 ～小さな一歩が世界につながる～」</td> </tr> </table> <p>(2) 実施方法・検証評価 ア 実施方法 本課題研究は、山口県立大学（文部科学省グローバル人材育成推進事業(タイプB&lt;特色型&gt;)採択校）との連携により実施する（先方了承済み）。 課題研究の中核に「スーパーグローバルタイム（SGT）」と名付ける総合的な学習の時間を位置付け、1年次から段階的に進めることとし、1年次は普通科全員200名を対象に研究テーマにつながる基礎力を養成し、2年次からは普通科スーパーグローバルコース（SGコース）40名を対象に、前述の三つのテーマに沿った研究を進め、3年次で広く研究内容を発信していくこととしている。 また、研究内容を検証し実践につなげるために、アウトリーチとして生徒それぞれの研究課題に応じて海外実践又は国内実践を行うこととする。さらに、アウトリーチの内容深化や地域への提言や発信を充実させるために、課外活動的なグローバルセミナーや学校設定科目「課研表現」を設定する。 (ア)「スーパーグローバルタイム（SGT）」（総合的な学習の時間） ○ 実施時期及び単位数：1年次（1単位）、2年次（2単位）、3年次（1単位） ○ 対象生徒：1年次…「志育成セミナー」・「探究基礎」（普通科全員） 2年次…「グローバル探究」（普通科SGコース） 3年次…「オピニオン発信セミナー」（普通科SGコース） (イ)「課研表現」（学校設定科目） ○ 実施時期及び単位数：2年次（1単位）、3年次（1単位） ○ 対象生徒：普通科SGコース (ウ)「グローバルセミナー」（課外活動） ○ 実施時期：1年次 ○ 対象生徒：普通科希望者 (エ)「アウトリーチ」（海外実践：オーストラリア 国内実践：東京） ○ 実施時期：「海外実践」1年次（年度末）・2年次（年度末）、 「国内実践」1年次（年度末） ○ 対象生徒：1年次…SGコース選択者、2年次…SGコースの内希望者 イ 検証評価 研究論文・提言、意識調査、外部評価委員会評価による。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等…特になし</p>	Ⅰ	「山口から発信、国際競争力のある企業戦略 ～アジア新興国の台頭を受けて～」	Ⅱ	「山口活性化計画の提言 ～世界に誇れる活力ある地域づくりの発信～」	Ⅲ	「山口からはじまる国際貢献 ～小さな一歩が世界につながる～」
	Ⅰ	「山口から発信、国際競争力のある企業戦略 ～アジア新興国の台頭を受けて～」					
Ⅱ	「山口活性化計画の提言 ～世界に誇れる活力ある地域づくりの発信～」						
Ⅲ	「山口からはじまる国際貢献 ～小さな一歩が世界につながる～」						
⑧ -3 上 記 以 外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価…特になし (2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例…特になし (3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程外の取組内容・実施方法 ア 本校独自の取組 姉妹校であるオーストラリアのコタラハイスクールとの関係をさらに発展させ、強固な連携関係を構築する。 イ 山口県教育委員会と連携した取組 山口県教育委員会が実施する各取組の企画・運営に、SGH校として関わり、山口県全体のグローバル人材育成に向けたよりよい環境整備に貢献する。</p>						
⑨その他 特記事項	特になし						

ふりがな	やまぐちけんりつうべこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	山口県立宇部高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	人	50人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: これまでの各種施設への自主的な訪問に加え、SGHやSSHでの成果の還元により、主体的な取組を促進する。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	4人	6人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 研修への意欲はどのSGコース生徒にもあるものの、各家庭の経費負担を鑑みて設定した。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	%	5%	%	%	%	%	%	15%
目標設定の考え方: SGコース生徒については全員、それ以外の生徒も留学等への意欲の増進に努める。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	人	3人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 各種コンテスト等への参加を促進する。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	8%	5%	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: 実績値は英検を任意で受検し準2級以上の資格を有している割合。今後はGTEC等を新たな指標として導入し、これを全員に課することで評価とする。									
躊躇なく、外国人とコミュニケーションを取ろうとする生徒の割合									
f	SGH対象生徒:								100%
	SGH対象生徒以外:		25%						50%
目標設定の考え方: 外国人との触れ合いの経験を重ねることにより、グローバル人材としてのコミュニケーション能力を図れる。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	65%
	SGH対象生徒以外:	37%	33%	%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: SGH校としての取組を充実させることにより、関係大学への進学を促進する。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	4人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: SGH校としての取組を充実させることにより、海外大学が進学先の選択肢の一つであることを意識付けしていく。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: SGH対象生徒はもとより、SGコースの取組(発表等)により、対象外生徒にも波及効果が期待できる。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: SGH校としての取組を充実させることにより、留学等への意識付けに資する。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	0人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方： オーストラリア海外実践の機会等を利用し、検討・推進していく。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	50人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方： SSH校としての取組の実績に加え、SGH校として研修の参加に努める。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	0校	校	校	校	校	校	3校
目標設定の考え方： 現在交流のあるコタラ高校との連携を進め、さらに複数の高校・大学との連携に努める。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	120人	人	人	人	人	人	250人
目標設定の考え方： SSH校としての取組の実績に加え、SGH校として外部人材の参画の促進に努める。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	0人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方： 連携機関である企業等との連携・交流を促進し、参画者数を増加させる。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	2人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方： エコノミクス甲子園等、現在、生徒の自主的参加の大会については、学校としても支援していく。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	1人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方： 留学生の受入れについて検討・推進していく。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	0回	回	回	回	回	回	10回
目標設定の考え方： 本校での研究発表会に加え、各地での発表会に参加していく。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
目標設定の考え方： まずは一部整備に着手し、早い段階での整備に努める。								
グローバル人材育成に向けた本校の取組に関して報道機関が取り上げる回数								
j		5回						15回
目標設定の考え方： SGH校としての取組を充実させることにより、回数の増加が期待できる。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	838	799					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							